

浄願寺だより

R6 夏 No.21

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思ひます。夏冬二回発行を予定しています。

令和六年七月二十五日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

「ふんばる」と

「頑張る」は違う？

お寺の入り口の掲示板、毎月言葉を考えて書きかえています。

先月は、

「いま、

「ここ」が

辛抱のしどころ

ふんばりどころ

という言葉を書きましたところ、いつも掲示板を見てくださるご近所のおばさんがわざわざ玄関にお越しになって、「ご院さん、今月の掲示板の言葉、分かりやすい、いい言葉ですね。でもひとつ気になる所があるんですが。」とおっしゃいます。「ほう、どこが気になりますか？」と聞きますとその方は、

「『いま、ここが辛抱のしどころ、ふんばりどころ』と書いてありますが、あれは『頑張るどころ』の間違いでは

はないですか？『ふんばりどころ』というのは少し変な感じがします」とおっしゃいます。

いつも面白いことに気付かれる人です。確かに「ふんばりどころ」にするか「頑張るどころ」にするか私も考えたのですが、悩んだ末に「ふんばりどころ」を選んだ訳をこうお伝えしました。

もちろん言葉の感じ方は人それぞれですが、実は「頑張る」という言葉は「我」を「張る」という意味でもあつて、自分を中心にして、自分の力を頼みにして、私こそがやらねばならぬ、他の人に負けてはならぬ、と努力奮闘するのが「頑張る」ということです。強風吹き荒れる嵐の中、絶対に飛ばされるものかと、必死に柱にしがみついているようなイメージがあります。

それに対して「ふんばる」というのは、しっかりと両足に力を込めて大地を踏みしめている姿です。

ただし、「ふんばつて」いる人には、つかまつているものは何もありません。自分をその場に留めているのは自分の体重だけです。ですからどんなに力を入れて踏ん張つていようと、自分の体重を超えるような風が吹けば、なすすべもなく吹き飛ばされるしかありません。

私たちが生きているという事は、時として自分の力ではどうすることも出来ない逆風にさらされ、それに耐え続けなければならぬ事でもあります。もちろん私たちは何かに必死にしがみ付きながら「決して飛ばされるものか」とその場を耐え忍び頑張ることもできます。

しかし私は時おり思うのです。私たちはどんなに両足に力を込めて踏ん張つていても、自分が支えていられるのはせいぜいこの体重分ぐらいのことで、本当に自分の重さを超えるような風が吹いた時には、素直に飛ばされることも

大切なのではないかと。私の人生には私にはコントロール出来ないことが沢山あつて、私を超えた大きな力に飛ばされたり、逆に支えられたりしながら進んでいくしか無いものだ、という事を私たちは謙虚に知っておくことも大事なことのよう思えるのです。

今日一日、両足に力を込めてなんとか踏ん張りながらも、自力の限界を知つて、飛ばされるべき時にはちゃんと飛ばされよう。老いや、病や、思い通りにはならぬ人生の真つただ中にあつて、もう十分に頑張り、頑張り、頑張りぬいて、お寺にお越しになる方々への言葉として、「頑張りどころ」より「ふんばりどころ」の方が相応しいように思つたのです。

そうその方にお話ししましたところ、わかつたような、わからないようなというお顔をなさつて、「おおきに」と帰つて行かれました。笑

お寺のお客さん

友遠方より来たる。最近浄願寺にも時々外国からのお客様が来てくださいます。今回はチエコ共和国から来られたマティーさんが言葉を寄せてくれました。

こんにちは！私はマティーといいます。チエコという国から来て、ヒツチハイクで日本中を旅しています。

このたび、浄願寺さんに、ガールフレンドのヨハンカと一緒に泊めてもらっています。観光地ではなく、日本のお寺の本当の姿を内側から見る事ができることは、私たち「西洋人」にとっても特別な体験です。

毎朝、お経の声で目覚め、私も何度かお勤めに参加させてもらいました。朝のお勤めにも毎日何人かのお参りがあり、日本の人々が、今もこうして精神的な伝統を長い間守り続けていることに驚かされました。

また、日本のお坊さんの毎日の生活や、その儀式のやり方を間近に見ることができたことも、とても良い経験でした。たとえば、住職さんが、日本のお墓の「性根ぬき※」の法要を見せてくれました。その儀式を終えると、古いお墓に触れたり動かしたりできるという考えがとても日本的

で興味深いと思いました。(※住職注 正確には浄土真宗では遷仏法要といえます。)

私たちは浄願寺さんで過ごし、こいつた貴重な経験が出来た事にとても感謝しています。



マティーさん(右)とヨハンカさん。いま(7月末時点で)マティーさんは丹波市に陶芸を学びに行っています。ヨハンカさんはお寺におられます。ヨハンカさんは日本の料理を学びたいそうです。

お寺の掲示板

いま
ヨハンカ
寺抱のしどろ
ふんばり
どころ

門徒の広場

門徒の広場はWEB版では
ご覧いただけません



編集後記

この7月で祖母が百才を迎えます。もちろんそれなりに物忘れもありますが、驚くべきことに、今でもなんとか台所に立つて、お料理を作ってくれます。父親にとっても、おふくろが生きてるうちは死ねん、と自分の体をいたわり生きるこの理由の一つになつてくれています。生きている限り、誰にでも何かの役割があり、生きている限り必ず誰かの役に立っている。おばあちゃんはいつもそのことを私たちに思い出させてくれます。

変わりゆく形、変わらない心。



ふるさとの杜墓苑
永代供養墓
furusatonomoriboen.com

浄土真宗本願寺派
笹尾山 浄願寺

〒620-0925
福知山市上篠尾725
電話 0773-22-5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法